

平成 26 年 3 月 10 日

ところ会員 各位

ところ会 4 月行事案内

平成 26 年度、第 4 回テーマ：八王子周辺の中世の城をめぐる

平成 26 年のところ会の 4 月の行事はバスで八王子周辺の中世の城をめぐる史跡めぐりを検討しました、今年は桜の開花の時期が遅れそうで、訪問先は桜の名所もあり楽しめる案内で実施することになりました。

参加不参加の返答は 3 月 20 日までに連絡を下さい。

記

■日時・集合時間：4 月 4 日(金) 9:00 雨天決行
歩きやすい靴で参加下さい。

■集合場所：西武池袋線狭山ヶ丘駅東口(ロータリー側)

■コース：

狭山ヶ丘駅発(ロータリー側)9:00⇒国道 16 号線⇒滝山城跡着(9:45)
⇒八王子郷土博物館(11:15)⇒昼食：こじま(12:00)⇒武蔵野陵墓
(13:20)⇒徒歩移動⇒多摩森林科学園(14:15)⇒八王子城址(15:50)⇒
あきる野 IC ⇒入間 IC ⇒狭山ヶ丘駅(18:00 頃・解散) ⇒新所沢(最
終解散)

■参加費用：¥4,000～¥5,000(昼食代含む)を予定 ⇒500 円安くなる見込み

■訪問先詳細

■滝山城跡・滝山城公園

住所：八王子市高月町

お問い合わせ：☎0426-23-1615 小宮公園サービスセンター
〒192-0043 八王子市暁町 2-41-6

■八王子郷土博物館

住所：〒192-0902 東京都八王子市上野町 33

☎：042-622-8939、FAX：042-627-5919

■昼食場所：釜飯「こじま」

住所：〒193-0931 東京都八王子市台町 3-14-4

☎：042-622-9412

■武蔵野陵墓

住所：東京都八王子市長房町 武蔵野陵墓地

参拝のお問合わせ：宮内庁書陵部多摩陵墓監区事務所 (☎：
042-661-0023)

■多摩森林科学園

所在地：〒193-0843 東京都八王子市廿里町 1833-81

☎：042-661-0200

■八王子城址

所在地：元八王子町 3 丁目、西寺方町、下恩方(管理棟は元八王子町
3-2715-2、☎042-667-7832)

問合せ先：042-643-3115 (八王子観光協会)

■見学場所簡単ガイド

■滝山城

■滝山城(たきやまじょう)は、現在の東京都八王子市丹木町(たんぎまち)にあった戦国時代の城である。

■歴史

1521 年(永正 18 年)山内上杉氏の重臣で、武蔵国の守護代大石定重が築城し、高月(たかつき)城から移ったという。1546 年(天文 15 年)、北条氏康が河越の夜戦(河越城の戦い)で扇谷(おうぎがやつ)上杉氏を滅ぼし、山内上杉氏の勢力を武蔵から排除すると、大石定久は北条氏康の三男・氏照を娘婿に迎え、事実上、大石氏は北条氏の軍門に下った。1558 年(永禄元年)頃、北条氏照は城の大改修を実施した。

注：所沢市の滝の城は大石氏が築城したものとされています。

1569 年(永禄 12 年)、小田原攻撃に向かう武田信玄軍 2 万が滝山城の北側の拝島に陣を敷き、別働隊の小山田信茂隊 1 千が小仏峠から進入、これに対し北条方は廿里(とどり)で迎撃したが一蹴され(廿里古戦場)、滝山城三の丸まで攻め込まれ落城寸前にまで追い込まれたが、2 千の寡兵で凌いだ。しかしこの戦いは、滝山城の防御体制が不十分であることを痛感させ、八王子城を築城し移転するきっかけとなったといわれている。

なお、近年において齋藤慎一が1561年(永禄4年)春に上杉謙信が小田原城を攻めた際に滝山城下を經由した形跡があるのに合戦が起きていないこと、同年7月に北条氏康が三田氏を攻めた際に滝山城よりも遠い由井城(浄福寺城とみられる)に本営を置いていることなど、滝山城が存在していれば起こり得ない事例を挙げて、同年当時滝山城はまだ存在していないとした。齋藤は、小田原城から由井の北条氏照への棟別銭免除の指示を示した朱印状が出された1563年(永禄6年)4月より北条氏照が滝山城への年貢納入を命じた発給文書が出された1567年(永禄10年)9月までの4年余りの時期に上杉謙信の南下に対抗するために滝山城が築城されたとする説を提示している。

■構造

多摩川と秋川の合流点にある加住丘陵の複雑な地形を巧みに利用した天然の要害で、**関東随一の規模**を誇ったという。

現在、遺構として本丸、中の丸、千畳敷跡、空堀などが残っており、国の史跡に指定されている(1951年(昭和26年)6月9日指定)。大部分が東京都立公園「滝山自然公園」となり桜の名所である。

■都立滝山自然公園・滝山城跡

戦国時代中期に建てられた滝山城の城跡と、周辺の丘陵地からなる公園です。滝山城跡は国の指定史跡でもあり、公園内ではかつての山城の複雑な地形を見ることが出来ます。

昭和46(1971)年度に**約5000本の桜**が植樹され、桜の名所となりました。例年4月上旬には丘陵斜面を覆うように桜が開花します。

滝山城は最初に急坂があり20m位登ります。ここをゆっくり登ればもう坂はありません、本丸址まで行きましょう。広大な城域の一部しかいけません、桜の満開を期待して行きましょう。

■八王子市郷土資料館(登録博物館)

郷土の歴史を知る場として多くの人に利用されている博物館です。

1階は「八王子の歴史と文化」をテーマにした常設展示、2階は「こどもれきし展示室」として子供が関心を持つテーマについて展示されています。そのほか、様々なテーマで特別展を開催しています。

■第一展示場(八王子の歴史と文化)

1階の展示場は、「八王子の歴史と文化」です。原始・古代から近現

代までの八王子の歴史を、時代の流れに沿って展示しています。

□主な展示品

石器・土偶・縄文土器・釣手土器・軒丸(のきまる)瓦・燈(あぶみ)瓦・小銅鐸・八王子城跡出土遺物・八王子千人同心関連資料・焼夷弾の尾翼・空襲で溶けたガラスびん等

■特別展示室

特別展示室は、「八王子の文化財」と「平成22年度購入資料」の展示です。八王子の貴重な文化財や平成22年度新規購入資料の一部を展示しています。※特別展の開催等により、ご覧いただけない場合があります。詳細は、お問い合わせください。

□主な展示品

八王子神社扁額、下原刀、北条氏照印判状、明治天皇御大葬絵葉書など

■第二展示場

2階の展示場は、「こどもれきし展示室」です。昭和のくらしや学校・遊びの様子など、こどもたちに関心の高いテーマを展示しています。皆さんが子供の頃に使った物も多く展示されていますよ。

□主な展示物

くずはきかご・管(くだ)巻き・千歯こき・とうみ・はたおり機・たこ・教科書・石板・めんこ・市内の小学校の写真・七輪・箱ぜん・ランプ・氷冷蔵庫・ちゃぶ台・白黒テレビ・電気洗濯機

■武蔵陵墓地

武蔵陵墓地には、多摩陵、多摩東陵、武蔵野陵、武蔵野東陵の4陵があります。多摩陵は大正天皇の御陵です。その東隣の多摩東陵は、貞明皇后の御陵です。

平成2年(1990年)には、昭和天皇の御陵「武蔵野陵」、さらに平成13年(2001年)には香淳皇后の御陵「武蔵野東陵」がそれぞれ造られました。甲州街道からの参道には、ケヤキ並木が続いています。また、陵墓地内には北山杉が植えられ、荘厳な雰囲気が感じられます。

■多摩森林科学学園

■サクラ品種の研究

多摩森林科学園のサクラ保存林は、我が国のサクラ栽培品種の最大コレクションであり、貴重な遺伝的資源です。しかし、江戸時代以前にもさかのぼる伝統的な栽培品種は、長い年月の間に様々な取

り違えもあり、多くの混乱を抱えています。そこで、精度の高い DNA 解析や形態調査を駆使し、識別と系統解析を行い、多数の貴重な栽培品種の実態を明らかにするとともに、将来の活用に役立てる研究を進めている。

■都市近郊林の研究

都市近郊の落葉広葉樹二次林は、古くはいわゆる里山林として薪炭生産や農業利用のために維持されてきましたが、最近ではその目的を失い放置されています。都市近郊林を健全に保全していくために森林の分布や植物の多様性を明らかにし、管理法の違いによる植生変化などについて研究を進めている。

■生物多様性の研究

都市に近接する森林は、人間生活の影響を受けながら奥山とは異なる独特の生物相を維持してきました。都市域に残された森林がもつ生物保全の場としての機能を明らかにするために、都市域に生息する昆虫や哺乳類が生息環境の変化にともなってどのように変わってきているかについて、調査を続けている。

■森林環境教育の研究

森林科学における諸分野の研究成果を森林環境教育に活用する方策の研究を進めています。生物多様性保全など森林に関する学習の場としての環境教育林を園内に設定し、学習プログラムや教材の開発をはじめ、学校などが森林環境教育活動を進めるために必要な様々な研究を行っている。

■八王子城跡

小田原に本拠をおいた後北条氏の三代目、氏康の三男、北条氏照(1540?から1590)が築いた山城です。築城の時期ははっきりしませんが、天正年間に築城が開始され、氏照が滝山城から移ったのは天正12年(1584)から天正15年(1587)の間とする説が有力です。天正18年(1590)6月23日、豊臣秀吉の関東制圧の一環で、前田利家・上杉景勝軍に攻められて落城しました。この、八王子城落城が決め手となって籠城を続けていた小田原城は開城、北条氏は滅亡しました。氏照はこの時、小田原に籠城中で、開城後、兄の氏政とともに城下で切腹しました。

注:北条氏照は1559年大石定久の養子となり家督を譲られ大石源三氏照と名乗った。後に姓を北条に復して大石氏を配下に組み入れたとされるが、自ら北条を名乗った確実な記録は疑問視されており、大石当主の立

場を全うしたという説もある。小田原で切腹した後旧臣により氏照院が創建される。所沢に住んでいた斎藤鶴磯により書かれた「武蔵夜話」には上安松の長源寺の南方に氏照院が描かれている。

八王子城は、関東屈指の山城です。氏照が構想していた城郭は壮大で、落城時はまだ未完成の状態であったと考えられています。城は大まかに、城下町に当たる「根小屋地区」、城主氏照の館のあった「御主殿跡」などの「居館地区」、戦闘時に要塞となる「要害地区」に分かれています。この城が築かれた時代は、それまでの戦闘重視の山城から、近世的な天守閣を持つ平山城、平城への転換期であり、比較的なだらかな丘陵を利用して構築された滝山城から、より急峻な八王子城に移ると言うことは、時代を逆行する面もありました。しかし、安土城をはじめ関西の城で取り入れられるようになり、後に近世城郭の一つの特徴ともなった石垣を取り入れているところに、古い時代の山城にはない、八王子城の特徴があります。

平成2年(1990)の落城400年という節目に、御主殿地区の石垣と虎口などの通路、御主殿に続く古道が整備されました。石畳や石垣は、発掘によって確認された当時のものをなるべく活用し、破損していた個所についても、できるだけ当時の形に忠実な復元がされています。また、見学者の案内のために管理棟が建てられ、広場に八王子城案内板が設置されました。

八王子城周辺は、江戸時代には徳川幕府の直轄地、明治になってからは国有林となっていたため、あまり人の手が入らず、御主殿周辺の遺構は良好な形で残っていました。要害地区は深沢山(城山)の地形を巧みに利用して作られています。頂上に本丸が設けられ、周囲に敵の侵入や攻撃を防ぐために「曲輪」と呼ばれる平場が配置されています。平成18年4月に日本城郭協会より「日本100名城」に選定されました。「日本100名城」には、世界遺産の姫路城、国宝の彦根城・松本城、また東京都内では江戸城など、そうそうたる名城が選定されており、八王子城は戦国の山城としての状態を良く残していることなどから選ばれました。

八王子城の本丸は山上にあるので、今回は行きません。ガイドダンス施設で八王子城について学習した後、復元整備された御守殿跡まで歩いて行きます。

以上